

他人

竹田モモコ

登場人物

寒河江なつ……………舞台となる家の住人。
下田はつ江……………なつの同居人の母親。
小野寺結海……………なつの元カノ。

夕暮れ時、ファミリーむけの古い団地の一室。テーブルに椅子。ソファや観葉植物が西日に照らされて並んでいる。どうやらリビングルームのようだ。

奥には台所に続く引き戸と、廊下へ続くドアがあり、左手には別室に続く引き戸がある。台所に続く引き戸には動く人影が見える。

テーブルの上には飲みかけのビールやスマホ、テレビのリモコン、通販雑誌などが雑多に置かれている。そのうちスマホの着信音が鳴る。台所から慌てて一人の女（なつ）が入ってくる。炊事の途中で手が汚れているらしく、スマホをつまむように扱う。第二関節を器用に使って通話ボタンを押す。

なつ もしもーし。……うん、お疲れー。……あー、コンビニ？じゃあー、百万円。……え

、だって欲しいもんでしょ。ひやくまんえん。……はは。えー、じゃあー……ツエー。

オロナミンツエー。うん、今無性にツエー飲みたい。……おねしやーす……え、ああ、そうそう塩麴のやつ。……へへ。気をつけてねー。ほーい。

なつ、電話を切り、そこにあつたりリモコンのボタンを押し、テレビをつける。ビールを一口あおり、しばしザッピングする

なつ 物騒ですなー。

なつ、鼻歌交じりに台所のほうへ引つ込む。人のいないリビングでテレビの音だけがやましく響く。台所からは油の爆ぜる音がしてくる。

なつ あっつ！……あつっうー……

しばらくして、再び電話が鳴り出す。テレビと揚げ物の音でなつには聞こえない。しつこくなつを呼ぶスマホ。遠くから救急車の音が聞こえてくる。

暗転。

なつと中年の女性（はつ江）が向かい合って座っている。二人とも呆然と椅子に身を預け、疲れている様子。

なつ あ、すみません。

なつ、はつ江の目の前に置かれてある昨日のビールの空き缶をどかそうとする。

はつ江 あ、うん。かまんかまん。

なつ、立ち上がって空き缶を捨てようとしたものの、持ったまま力無くもとの椅子に座り込んでしまう。

はつ江 だれたね。

なつ あ、はい。だ……疲れましたね。

はつ江 ごめんね、ほんまにもう。えっと……さが……

なつ 寒河江です。寒河江なつです。

はつ江 サガエさん。うん、ほんまに、ユウコが、申し訳ない。

なつ あ、いえいえいえいえ。そんな、こちらこそ……

はつ江、リビングを見回す。

はつ江 それにしたち……

なつ すいません……

はつ江 いえいえいえいえ。すいません、こちらこそ。ユウコがお世話になって。

なつ いえいえいえいえ。こちらこそ。

はつ江 ここ、もともと寒河江さんのおうちながやろう。ほんまごめんね。あの子、なんちゃわんけん、一人暮らししようもんやとばかり思うちよったがよ。引越したとは聞いちよったけんだ……まさかお友達のおうちに転がりこんじょうとは思わんかってよ。

なつ すいません。

はつ江 こちらこそ。

なつ こちらこそ、その、言ってなくて……

はつ江 いや、うちはなんちゃわまんけんだ。女の子同士やし。けんだなんぞあつた時に連絡はせないかんけん、親には言うちよかないかん。

なつ ……すいません。

はつ江 サガエさんの親御さんには言うちようが。

なつ ……いえ。

はつ江 ありやー。……ご健在？

なつ あ、はい。田舎、あ、石川なんですけど、そこに……

はつ江 そうかよ、石川県かよ。去年婦人会で行ったで。兼六園。

なつ あ、そうですか。うちはあの輪島のほうで。

はつ江 輪島いうたら、上のほうかよ。

なつ あそうですね、上、ですね。あ、やっぱりお茶でも……

はつ江 あーいえいえい、かまんかまん。着替えとつたらじきに病院戻るけん。……どっこい

しょ……ユウコの部屋、どこやろか。

なつ　へや。

はつ江　部屋。入らしてもろうてかまんかね？

なつ　へや。

はつ江　部屋。あのー、クローゼット？ダンス？着替え入っちゃようろ。

なつ　へやー…

はつ江　やないだちかまんけん、着替え取らいてや。

なつ　あ、クローゼットは、寝室で。

なつ、寝室の方を見やる。はつ江、そちらの方へ行こうとする。

はつ江　そうかよ、ほいたら…

なつ　あー！ちよちよちよちよ…

はつ江に行く先をさえぎるなつ。

なつ　あ、あー…えっと、寝室が…一緒に。

はつ江　一緒？

なつ　はい、あの、えっと、ユウコ…さんと、私の。

はつ江　あ、へー…。

なつ　あの、で、ちよつとちらかってるかもなので…

はつ江　あ、うん。

なつ　うん。なので、私、私が、なんか、適当に、用意します。

はつ江　うん…

なつ　うん。なので、ちよつと、ここで待ってて下さい。

はつ江　うん。

なつ　はい。あ、えっとやっぱ、なんか飲み物…

なつ、そう言って台所のほうへ引っ込む。

はつ江　あー、おかまいなく…

台所のほうから冷蔵庫を開けたり閉めたり、何やらごそごそする音が聞こえる。

はつ江　かまんて…

そのうちなつが戻ってくる。手にはビール。

なつ どうぞ。

はつ江 え、あ。

なつ では、少々お待ちください。

なつ、はつ江の前にビールを置き、そそくさと寝室の方へ向かおうとする。

はつ江 あ、寒河江さん寒河江さん、これ、これ使うて。

はつ江、立ち上がり、なつに大きな紙袋を手渡そうとする。なかなかのスピードで戻ってきて紙袋を受け取るなつ。

なつ すいません、ありがとうございます。

はつ江 うん。お願いしまー……す……

なつ、リビングからいなくなる。一人残されたはつ江。ビールを持ち上げてみる。

はつ江 ……キンキンやいか。

はつ江、少し逡巡したのち、プルタブを引いてしまう。気持ちのいい音がリビングに響く。ゴクゴクと呑み下す。

はつ江 はー。……ビールやいか。

はつ江、なんとなくぶらぶらとそのへんを見回す。玄関のチャイムが鳴る。チャイムの音は絞ってあり、ごく小さい。扉を閉めた隣の寝室まで届いていないかもしれない。はつ江はなつを呼びに行くべきか、自分が対応すべきか迷う。そのうち玄関のほうでがちやがちやと鍵を開ける音がする。

はつ江 え。え。え…

ビールを持ったままリビングの奥まで下がるはつ江。誰が入ってきたようだ。廊下をダンダンと力強く歩いてくる音が聞こえ、一人の女（結海）が顔を出した。はつ江を見て息を飲む結海。

はつ江 こ……こんにちは。

結海、ゆっくりと回り込み、はつ江を上から下までじっくりと見る。

結海 ……こんにちは。

結海、そのままゆっくりとソファに座り込み、心臓を抑える。

結海 年上って……こういうことか……。

はつ江 はい？

結海 いや、聞くと見るとはやっぱパンチが違いますよね。すみません、いいもの持ってますね。それ下さい。

結海、はつ江の持っているビールを指差す。

はつ江 え、あ、これ。えっと、あ、どうしよう。冷蔵庫、やろか。かまんろか。ちょっと寒河江さんに聞いてみるけん。寒河江さーん。

はつ江、奥の寝室の扉をノックする。

結海 ……方言、苗字呼び、年上女子……。

扉の向こうから返事が聞こえる。

はつ江 寒河江さーん、ビールもう一本もろうてかまんろかー？

結海 これは…

はつ江、戻って来る。

はつ江 かまんと。ちょっと待ってね。

結海 ……かなわん。

はつ江、台所からビールを持って来る。

はつ江 グラスはかまんかね？

結海 かま……わんです。このままで。すみません。いただきます。

結海、ビールを開け、勢いよく飲む。

結海 はー……。うつま。

はつ江 えーつと、お友達？

結海 ……どうでしょうね。どう思います？本当にそう思います？どうしたもんですかね、これ。

はつ江 はい？

結海 ……余裕ですよ。えーつと……（お名前ー）……

はつ江 あ、しも…

結海 失礼しました！……年配、の方に先に名乗らすなんて。私、小野寺結海と言います。

はつ江 あ、はあ。下田はつ江と言います。お世話になってます。

結海 お世話…

はつ江 かいらしいね。ゆうみ？ゆうみちゃんていうが？どげな字書くが？

結海 え。字？……えつと、「ゆう」は「結ぶ」で、「み」は「海」。で、「結海」

はつ江 はあー。「むすぶ、うみ」で、ゆうみちゃん。たいちゃあ、今っぽいね。はあー、かいらしい。はあー…

結海 は。いや、恥ずかしいですよ。「結ぶ、海」とか。なんかたいそうで。

はつ江 いやいや羨ましい。ご両親はセンスがえいね。

結海 ……はつ江さん、は、どんな字書くんですか？

はつ江 え。「はつ」は平仮名で、「え」は、ほら、さんずいにカタカナの「エ」の、「江」。

結海 ああ、「入江」とかの、「江」。

はつ江 ああ、そうそう。入江とかの「江」。

結海 ああー…

はつ江 ね。昔の名前でね。古臭い。

結海 ああー、なんかまあ、割烹みたいすね。

はつ江 割烹。

結海 それかスナック。

はつ江 スナック。

結海 それか今だったら逆に、高級食パン。

はつ江 高級食パン？

結海 高級生食パン「はつ江」。

はつ江 こうきゅう、なま、しよくぱん…

結海 「はつ江」

笑い出すはつ江。ツポにはまったようだ。

はつ江 こうきゆう、なま、しょくぱん…

結海 「はつ江」

はつ江、笑いが止まらない。

はつ江 いやあー、なんか嬉しい。

結海 え、なんで。

はつ江 だって高級ながやる。

結海 まあ。

はつ江 食パンながやる。

結海 はあ。

はつ江 あははははは。結海ちゃんは、面白いこと言うねー。おばちゃん気に入った。

結海 おぼ…

はつ江 えいね。自分の名前も悪くない気んしてきた。ありがとう。

結海 お礼の意味ちよつと分かんないですけど、なんか…え、ちよつとずるくないです

か？はつ江さん。自分のことおばちゃんとか言わないでくださいよ。

はつ江 え、けんだおばちゃんやいか。結海ちゃんの倍は…

結海 その、いちぬけた感、やめてもらえませんか？一見、自分を落としたように見せてステ

ージの違いを見せつける、みたいな。

はつ江 いちぬけた……がやるかね？まあ、子供も手ん離れたけんねー。

結海、息を飲む。

結海 そうか、そうなるか……田舎マダムの華麗なるセカンドライフか……

はつ江 はい？

結海 すげえ、新しい。ある意味我々の希望ですね……

はつ江 きぼう？

結海 はつ江さんって、なんなんですか？お金持ちなんですか？パトロン？何が目的なんですか？なつってお金かけても売れないですよ？いや私、普段こんな失礼なこと言うやつじゃないんですよ。でもマジで分かんなくって。なつの趣味変わったのかなって最初思っただんですけど、でも、これからコレですよ。

結海、自分とはつ江を交互に指差す。

結海 いや何べんも言いますけど、私ふだんこんな失礼なこと言いませんよ。すいません。

別に今日もゲーム取りに来ただけなんですよ。今カノと採めようとか全然、これっぽつ

ちも思ってたなかったし。てゆうか仕事行ってるって思うじゃん、普通、この時間。

その時、なつが両手に紙袋とポストンバッグを持ってリビングに入ってくる。結海を見て息を飲むなつ。

なつ ゆーみん…

結海 ハイ、ダーリン。

なつ なんて、あんた…

結海 だから、ゲーム取りにきただけだって、もお。ごめんって。でもさ、突っ込まざるをえないじゃん。こんな年上と思わないじゃん。

なつ あんた、なに…

結海 はつ江さん、なつのどこがいいの？こいつクズですよ。はつ江さんと私、かぶってた時期あるんですよ。

なつ ちよつとあんた…

結海 仕事もあつたりなかつたりだし…

なつ ちよつと待って…！

なつ、結海の口をふさぐ。

結海 なに。なにあんた、結局は年上の経済力…

なつ おかあさん。

結海 え。

なつ だから、おかあさん。

結海 ……あんたの？

なつ、黙って首を振る。結海、ゆっくり血の気が引いて行く。

結海 ……あ、お相手の……。

なつ、ゆっくり頷く。

結海 ……私は、多分、お酒が、弱くて、私は、多分、酔っ払っている、という…

なつ 下田さん！すいません。この子、お酒弱くって、何喋ってるか分かんなくなっちゃうことがあるんですよー。

はつ江 ……あ、そうなが。なんか、ちよつと……そっかそっか、びっくりしたー。

なつ ほんと、すいません。

結海 あー、ごめーん、はつ江さーん。

なつ ほんとにもー。ちよつと、座ろうか、ね。水、水飲もうか。下田さんすいません、台所行って、お水汲んで来てもらえませんか？

はつ江 ああ、はいはい。

なつは結海を椅子に座らせ、はつ江は慌てて台所へ水を汲みに行った。はつ江が台所へ消えたのを確認すると

なつ ちよつと、なんなのあんた。

結海 だから、ゲーム取りに来たんだって。

なつ どうやって…

結海、合鍵をなつに見せる。

なつ あ。

なつ、結海から合鍵を取り上げようとする。すばやくよける結海。なつのほつぺたにキスをした。

なつ ……頭おかしいんじゃないの？

結海 お互い様。

なつ どうでもいいけど、マジで余計なこと言わないでね。

結海 カミングアウトは？

なつ してない…

はつ江 お待たせー。

はつ江、水の入ったコップを持ってリビングに戻ってくる。結海、テーブルに突っ伏す。

はつ江 大丈夫かね。結海ちゃん。飲めるかね？

なつ すいませんー。ほら、結海。

結海 うー…、すいませえーん。

結海、はつ江からコップを受け取り、ゴクゴクと飲み干す。

結海 はー…、うん、だいぶ復活した。ありがとうー、はつ江さん。

はつ江 大丈夫かね？だいぶよく分らんこと、言いよったけんだ…

結海 あー、やっぱり？ごめんごめん、私お酒極端に弱くってー…

なつ よく記憶なくなっちゃうんだよね。で、なんか、妄想？現実と夢混じったみたいな話するんですよ。多分、このこと明日には覚えてないですよ、きっと。ね。

結海 うー……、イルカがくるー……

なつ ね。

はつ江 だいぶ心配なね。

なつ 大丈夫です。いつものことなんで。

はつ江 こな子は、あれ？寒河江さんのお友達？

なつ いや、えーと、二人の？共通の？友達っていうか…

はつ江 あ、そうなが？なんか、鍵？持っちゃったみたいなけん、3人目の同居の人かと…

なつ あ、鍵！……鍵、持っていました？おつかしいなー。あれかも？ピッキング？

はつ江 ピッキング！？

なつ いや、うそかも。

はつ江 うそ！？

結海 鍵はかかってなかったよ！なっちゃん。

はつ江となつ、結海を見る。

結海 うー……、カジキがくるー……

結海、再び机に突っ伏す。

はつ江 ……まあまあ、とにかく戸締り、気をつけなあね。うん。

なつ はい、すいません……。

はつ江 よし、とにかく私は、これ持って病院戻らな。

なつ あ、はい。そうですね。私も一緒に……

はつ江 あー、かまんかまん。寒河江さんは、結海ちゃん見ちよっちゃってや。

なつ え、あ……。

はつ江 そげにべろべろな子を置いていけんやろ。

なつ はあ、まあ…

はつ江 あ、ねえ、寒河江さん、お願いがあるがやけんだ。

なつ はい。はい、なんでしょう。なんなりと。

はつ江 今日から一週間、泊めてもらえんろか？

なつ え。

はつ江 病院の近くのホテル泊まろうと思うちよったがやけんだ、連日いっぱい……多
いがやね、そういうご家族が。ほんで……連泊できるホテルがちよつと遠いけん。こ

こやったら、通いやすいろうし…

なつ はあ。

はつ江 長くても一週間やいうけん。どうやろう、ユウコ退院するまで。

なつ それはー…

結海 もちろんいいですよ。ねえ、なつちゃん。

なつ ちよつと…

結海 看病するのにホテル暮らしなんて、気が休まらないし、おかあさんのほうが身体壊したらあれじゃん、ミイラ取りがー…

はつ江 ミイラに。

結海 それ。ね、なつちゃん。いいじゃん、部屋あるし。

なつ あるっていつても、仕事部屋だし…

はつ江 お願い。どこじゃちえいけん、ここでも。もうぬくいけん、布団もいらんし。

なつ や、それはー…

結海 布団もあるよねえ。

なつ あるけど…

結海 よかったですね。私も遊びにきちやおうかなあ。

はつ江 あ、それえいね。手巻きとかする？

結海 きゃー！するー！

なつ ちよつと…

はつ江 すいません、寒河江さん。

結海 なつちゃんていいよー。

はつ江 なつちゃん、よろしくお願いします。

なつ ……こちらこそ、よろしくお願いします。

はつ江 よし、じゃあまた後で。どっこいしょ。

はつ江、立ち上がり、荷物を持ちリビングを出て行くこうとする。

なつ あ、荷物。こっちは、着替えとか本も入ってて、こっちはタオルとか、歯ブラシとか、化粧水。食べれるかどうか分かんないけどユウコの好きなゼリーも入ってます。充電

器はこっちで…

はつ江 うん。ありがとうなつちゃん。結海ちゃん、またね。

結海 うー……、メカジギがくるー……

はつ江 あはは。まだ酔うちょうね…

はつ江、出て行く。なつもはつ江を玄関先まで見送りに出て行く。一人残された結海。大きく一つ伸びをして、テレビの下のダッシュボードなどを漁りはじめる。

なつ、帰って来る。

なつ ……どういうつもり？

結海 だからゲームを…

なつ 何やってんの？

結海 だからゲーム機探してんの。

なつ ……そこにはない。出すから勝手にあちこち触らないで。

なつ、戸棚の一つを開け、奥から紙袋に包まれたゲーム機をひっぱり出す。

結海 おお。そんなところに。もったいな。全然やってないじゃん。

なつ ……。

結海 ねえ。

なつ ……。

結海 ねーえ。

なつ 何。

結海 彼女どうしたの？

なつ ……交通事故して、入院。

結海 うっそ。大丈夫？

なつ ……大丈夫。骨折だけで。一週間入院。

結海 よかったー。なんか色々ふざけちゃったけど、これで大きい病気にしたら全然笑えないじゃんとか思ってた。

なつ ……。

結海 ねえ。

なつ なんてさ、勝手におかあさん泊まらすとか言っちゃうの？あんた何したいの。目的はなに？

結海 え、目的とかないよ。

なつ なんてそういうことすんの。訳わかんない。嫌がらせ？

結海 嫌なの？

なつ ……。

結海 彼女の母親と二人で一つ屋根の下とか、最悪だもんね。

なつ ……。

結海 あんた人見知りエグいしね。

なつ ……。

結海 でもさ、楽しそうじゃん。マジで私も呼んでよ。寿司パしようよ、寿司パ。はつ江さんの作る寿司とか、絶対なんか美味しそう。お料理上手そうじゃん。はつ江さん。いい

出汁とりそう。いい出汁とりそう系女子。

なつ ……あんたのそういう節操ないところ、マジで疲れる…

結海 し、好きだったでしょう？

なつ ……

結海 さーて、かーえろー。実は今仕事中なんだよねー。得意先周りで近所通ったからついでねー。

なつ 「つい」で元カノの家に入るのどうかしてない？イカれてるわ。

結海 ごめんー。なんか、なんかさ、彼氏が突然やりたいつて。コレ。中古品買おうとして

たから。人に貸してるから、回収してくるわって、言っちゃったんだよね。

なつ ……鉢合わせしたらどうしようとか、思わなかったの？

結海 まあ、それはそれで彩り？人生の？

なつ ……

結海 今、がっかりしたでしょ。そういうとこだよ。なつちゃんがクズなの。いつまでも自分の女は自分のものだなんて。イカれてるわ。

なつ ……鍵返して。

結海、今度はおとなしく鍵を渡す。

結海 はい。合鍵の合鍵なんて作ってないから安心して。

なつ、疑いの目。

結海 そこまであんたのこと好きじゃないってー。

なつ ……

結海 ほら、いちいち傷つかない。

なつ ついてない。

結海となつ、玄関の方へ向かいながら

なつ てゆうかなんで、二人ともビール飲んだの？

結海 え。はつ江さんが飲んでたからもらったの。

なつ えマジで？はつ江さん、飲んでたの？

結海 えもしかして、はつ江さん勝手に飲んでたの？

なつ え、はつ江さん勝手に飲んでたの！？

なつとて言いながら退場。

日が暮れる。その日の夜。
台所からはつ江がふきんを持ってリビングに入ってくる。テーブルを丁寧に拭く。テレビのリモコンのボタンの隙間が気になるようで、そこも拭く。気になるところを色々と拭く。なつ、廊下の方からリビングに入ってくる。

なつ あ、すみません。

はつ江 いーえー。居候の身やもん。これっばあは。

なつ あ、いえ……すみません。

はつ江 あ、そうや、ユウコ、ゼリー喜んじよったで。まだケガの熱んあるみたいなけん、あげながん、ええみたいな。

なつ あ、そうですか。よかった。

間

はつ江・なつ あ。／あの。

はつ江 あ、あごめん、なになに。

なつ あ、いや、別に、すみません。

はつ江・なつ (同時に) ……ユウコ。

はつ江 あ、うん、ユウコ。

なつ あ、うん、ユウコユウコ。ユウコさん、なんか、他にいるものあるとか言ってますでしたか？

はつ江 あ、うん。とりあえずは大丈夫みたいな。「さすがなつ。」って言いよったで。

なつ あ、そっか……よかった。

はつ江 ごねんね、色々してもらうて。

なつ いえいえいえいえ……。

間

はつ江・なつ あ。／あの。

はつ江 あ、なになに、

なつ あー、いえいえ、あの、お風呂。お風呂沸いたんで。お先にどうぞ、とか思って。

はつ江 え、あ、かまんかまん。なっちゃん先に入ったや。

なつ あ、いえいえ。全然。はつ江さん、今日は疲れたでしょう？今仕事部屋片付けて、お布団用意したんで、ゆっくりしてください。

はつ江 だいや。たまるか。悪いね。気いつかわいて。

なつ いえいえいえいえ。

はつ江 ほいた、お言葉に甘えて先にいただきますか…

なつ あ、はい。どうぞどうぞ。あ、ふきん。ふきん、預かります。

はつ江 あ。あ、ごめんね。ありがとう。

はつ江、リビングを出てお風呂場の方へ向かう。

なつ あ、タオルとか、全部おいてますんで…

はつ江 はい。

なつ、リビングに一人になる。大きなため息。ゆっくりと椅子に腰掛け、頭を抱える。

なつ 無理だ……

なつ、ポケットからスマホを取り出し、どこかへ電話する。何度目かの呼び出し音のあと、相手につながる。

なつ もしもし、結海？

暗転。

別の日。

リビングでは、はつ江がビールを飲みながらテレビを見ている。はつ江は部屋着で、顔にパックを貼りつけている。そのうち台所で洗い物をしていたなつがこれまたビールを片手にリビングに入ってくる。

はつ江 あ、ありがとうー。ごめんねなっちゃん。洗いもんまかせて。

なつ いいえー、これくらい。はつ江さんお料理全っ部してくれまし。

なつ、はつ江の前につまみとしていかり豆か何かを置く。

はつ江 あ、ありがとう。

なつ しかし美味しかったなー。何あれ。酢飯の出汁。鯖？鯖の身ですよね。

はつ江 あ、そうそう。いっぺん焼いてから入れるが。ほんまは地元のゴマ鯖使うたらもつと美味しいがやけんだ。

なつ へー。

はつ江 あと、だいたい。だいたいの果汁しぼるが。

なつ へー。だいたいってみかん？柑橘ですよ。

はつ江 そうそう。冬になるけん、しぼって、ひらべったあーにして冷凍しちよくが。ほい
たら一年中使えるけん。

なつ あ、なるほどー。こう、割って？

はつ江 あ、そうそう、割って。使う分だけ。

なつ はー。こっちで売ってるのあんま見たことないなあ。

はつ江 わざわざ買わんちも、そこらへんでとれら。

なつ えー、最高。いいなあ。

はつ江 なつちゃんは料理するがやる。

なつ あ、うん。私は割と好きかなあ。

はつ江 ユウコは全然料理せんに、お台所が、ほら、なんか充実しちようけん。

なつ あ、そっか。

はつ江 干しいたけとか、バルサミコ酢とか、ユウコが買うとは思えんし。

なつ はは。確かに。でもユウコ、コーヒーは自分で淹れるんですよ。

はつ江 え、そうなが。意外。

なつ 毎朝、豆から挽いてくれて。

はつ江 えー、あの子が。

なつ 美味しいですよ。最近水出しコーヒーはまってて。

はつ江 へえー。なつちゃん、今度うちおいでや。ユウコがもって来る時、一緒に。

なつ あ、そうですね。ぜひー。

はつ江 お正月はどう？

なつ あー、どうだろ。

はつ江 でもなつちゃんも帰省せないかんもんね。

なつ あー、そうですね。

はつ江 じゃあ、お盆：

結海 なつちゃん、お先ー。

頭にバスタオルを巻いた結海がお風呂から出て来た。

結海 あ、何それ、はつちゃん。バック？いいなく、ズルい。私もちようだい。あ、ビール
もー。

なつ なにあんた。

結海 バックバック。

結海、手をぴらぴらさせて催促している。

なつ、そこらへんにあった化粧ボックスの中からバックをひっぱりだし、結海にも渡して
やる。

なつ

結海　さんきゅー。ビールは？

なつ　自分でとれ。

結海　いいの？冷蔵庫あけて。

なつ、不承不承ビールを台所へ取りに行く。結海はパックを顔に貼り付ける。なつ、冷えたビールを結海の前に無言でおく。

結海　さあんきゅー。

なつ　お風呂はいつて来る。

結海　ん。いつらてっしやーい。

なつ　……。

結海、何か言いたげななつを手で追い払う。なつ、無然としたままお風呂へ向かう。

はつ江　いつら、てっしやい。

結海　うん。昔流行ったの。二人の間で。

結海、ビールを開けて、飲む。

結海　……かー。人んちのビール最高。

はつ江　はは。あれ、けんだ、結海ちゃん、飲んだらいかんがやない。

結海　ああ。今日は体調いいから大丈夫。

はつ江　あ、体調悪かったら、悪酔いするが。

結海　そそそそそ。

はつ江　生理とか？

結海　そそそそそ。生理とか。

はつ江　大変なねー。

結海　まああねえー。はっちゃんは？生理しんどいほう？

はつ江　私はもう、いちぬけたけん。

結海　え、いいなあ。マジで。

はつ江　うん。

結海　もうきてないの？

はつ江　うん。もう工場閉鎖。

結海　いいなあー。ねえ、どんなかんじ？どんなかんじ？

はつ江 落ち着くまではしんどかったでー。二年ば前は、急に滝みたいにかいて夜中起きたり、ざまにイライラしたり。あとなんか、私はこう、ムズムズ病？なんちゃないがやに、足に虫が這いようみたいな感覚がしたり…

結海 何それ。怖。ホルモンこわ。今も？

はつ江 今は大丈夫。だいぶ落ち着いた。

結海 あ、よかったねー。

はつ江 生理止まったら、楽でー。やっと自分の体を自分でコントロールできるかんじするもん。憑きモンが落ちた？みたいなの？

結海 やっぱそうなんだ。

はつ江 私はね。「女」っていうもんに今までたいちゃあ振り回されよったがやなって思うたね。

結海 へー。

はつ江 だってそうやいか、月の半分は調子悪かったがやもん。

結海 うん、まあそうやね。

はつ江 まあ、何年も更年期で苦しむ人もおるけんね。いちがいに言えんけん。

結海 そっか。いや、勉強になるなー。

はつ江 結海ちゃんは、あれかね。子供欲しないかね？

結海 あー、んー…それなー。

はつ江 なにそれ。あれ？結婚は？しちようがかね？

結海 んー…今度する、と思う。

はつ江 いやなにそれ。いや、めでたいやいか。

結海 んー。

はつ江 おめでどう。

結海 ありがとう。

はつ江 はー。えいねえ。

はつ江、バックをベリベリと顔から剥がす。その使いさしのバックをもったいないので腕に塗りつけている。

結海 えいかねえ。

はつ江 ええやいか。ユウコとか全然その気ないもん。

結海 あー、ユウコはねー。

はつ江 こないだ、もんだときも「結婚は期待せんとして」って言われたもん。

結海 あー、ユウコらしいねー。

はつ江 別に孫を抱きたいとかよ、そんな、今どきの人に向かって言わんけんだよ。一生一人でおるがも寂しいやいか。

結海 ねえはっちゃん、これ何分？
はっ江 え。

はっ江、パックの個包装の裏を見る。

はっ江 ……5分。

結海 今何分？

はっ江 さあ。

結海 まいっか。

結海、パックを剥がす。

はっ江 早いがやない？

結海 長いとだめなんだって。

はっ江 長いぶんにはえいやいか。

結海 なんか？長いと逆に？水分もつてかれちゃうんだって。知らんけど。

はっ江 え、ほんまに？私だいぶ長いことしてしもうた。

はっ江、思わず自分の顔を触る。

結海 いやさ、結婚せんでも誰かと添い遂げるのは可能じゃない？

はっ江 はい？

結海 ユウコ。

はっ江 ああ、ユウコ。そんな、あの子が、結婚もせんで口約束だけで一人の人と添い遂げるとか、無理やと思うけんだねえ。

結海 ほー。

はっ江 結婚して、子供でもできたら、それ簡単には別れられんろうけん、多少重しにはなるろうけんだ。

結海 重し。

はっ江 あの子は、いつまでもふわふわして。最後は一人で死んでいくがやないろうか思いよう。

結海 うーん…

はっ江 結海ちゃん、ユウコの彼氏とか知っちゃう？

結海 知らん。

はっ江 そっか。そんな話したりせん？

結海 ……せんねえ。

はつ江 そっか。

結海 ねえ、ユウコの恋人、とかにはっちゃん今まで会ったことある？

はつ江 ない。

結海 うーん、そっか。

はつ江 仲、悪くないとは思うがやけんだ。なんか、そういう話、全然してくれんくって。

結海 うん。分かる。

はつ江 分かるが？

結海 うん。私も親とそういう話しないから。

はつ江 それはなんで？

結海 うーん……。なんてゆうのかなー…

なつが風呂から出てくる。

結海 いや早っ。早すぎない？え、入った？入ってないよね。入ったの？

なつ 入ったよ。

結海 うそっ早っ。

なつ あんたがなんか、よけいなこと言ってる。

結海 ああー…：分かる。

はつ江 なっちゃん、ゆっくり浸かっておいでや。

なつ 大丈夫です。どうせ朝シャワーするし。

はつ江 そっか。

なつ 何の話してたの？

結海 ユウコの恋人のはなし。

なつ こいつ…

結海 なっちゃんはユウコの恋バナとか聞いたりしてないの？

なつ こ…

結海 いや、はっちゃんが、ユウコが全然そんな話してくれないんだって悩んでるから。

はつ江 いや、悩んでまではないけど、やっぱりちょっと寂しいやん。女親として。

なつ ああ。

結海 そこらへんどうなのかなーと思って。ユウコは。ほら、考えてみたら私はユウコのこ

と何にも知らないじゃん。

はつ江 そうなが？

結海 うん。全然知らん…

なつ ユウコは。…：ユウコは、元気ですよ。

結海 いや、うん。今入院してるよね。

なつ あ、うん、そっか。じゃなくて、そっか…。いや私もそういう話はちょっと…。

はつ江 そっかあ、残念。

なつ すいません、お役に立てなくて。

はつ江 いやいや、そんな、なんちゃあ。

結海 はっちゃんは？

はつ江 え？

結海 彼氏いるの？

はつ江・なつ は？

結海 好きな人とか。

はつ江 え、いや、おるわけないやん。お父さんおるし。

結海 「お父さん」って、旦那さん？

はつ江 あ、そうそう。

結海 ふーん。旦那さんのこと好きなんだ。

はつ江 そんな今更、好きってこともないけんだ……。情もあるし……。

なつ あんた、何言ってるの。失礼だよ。

結海 そっかなあ。なんかさ、自分の親にも思うんだけど、この人たちって、いつまで親やっつてんだろうって思うのよ。

はつ江 え。

なつ いつまで……って、それは一生そうじゃないの？

結海 んー、なんかさ、大きくなれば対等になれるかも、友達になれるかもって思ってたんだよね。こちとら。

なつ こちとら。

結海 それが全然。いつまでも、何喋っても「親」の枠から外れない喋りってゆうか。分かる？

なつ それは分かる。

結海 それはさ、つまらんワケよ。こっちとしても。会話って、トークって、ギブアンドテイクじゃん？相手の開き具合によって、こっちもどんだけ開くか、どこまで引き出し開けるか決めるじゃん。子供は、愛だの恋だのとっておきのプライベート話をぐいぐい求められてんのにさ、親は何一つ自分のおもしろ話してくれないじゃん。そりゃあ出し渋るよね。

なつ あんた、よく喋るね。

結海 営業だからね。

はつ江 はい。

はつ江、拳手。

なつ あ、はい、はつ江さん。

はつ江 でもそれは、こつち、親側はもう、ないがっちゃ。うん。あるわけないやん。新しく提供できる色恋のはなしとか。

なつ うん。そうだよね。いや、そうであって欲しいわ。

結海 はい。

なつ はい、結海さん。

結海 いや、色恋の話じゃなくてもいいんだって。等価交換。等価交換できる、なにかで。

なつ おおー……。てゆうか等価交換って言いたいだけでしょ。

結海 うんそう。

はつ江 はい。

なつ お、はい、はつ江さん。

はつ江 交換するも何も、子供にはすべてを見せちゃうが。親って。生活の全てを。ほんまにないがっちゃ、プライベートとか。なんなら究極のプライベートの末が、家庭であつて、えーと、……。うん、そうそう。もう増えんが。自分の話とか。

なつ え、なんかそれはそれで……

結海 えー本当にー。そんなことないでしょ。なんか一つくらいあるでしょ。墓場まで持つてく秘密の一つや二つ。

なつ あんた、よくそんな口まわるよね。てゆうかそんな秘密と、自分の色恋の話が「等価」だと思ってるの。すんごい値打ちこくね。

結海 あうん。そうね。

はつ江 あ……

なつ え。

結海 なになに。

はつ江 いや、これ全然、そんなことないわ。うん。

結海 なになになになに。きた？等価交換。

なつ ちょっとあんた、やめな？

結海 いいじゃん、別に。ここでは誰も親でもないし子でもないし。ただの女子会なんだから。

はつ江 そっか、そうやんねえ……。

なつ いやいや、無理してしゃべることないよ、はつ江さん。この子の言うこと、全部思いつきだし、間に受けることないよ。

はつ江 うん……。いや、ほんまにつまらんことで、誰っちゃんに言うちよらんことがあるがやけんだ……。これはどうやろうか？その、等価交換になるがやろうか、と想着て……。

結海 おおー、いいね。盛り上がってきた。言ってみて、試しに。

なつ 何の試しよ。

結海 だからさ、ユウコちゃんとしやべる時の「試し」よ……

はつ江 えっと、わたし他人の旦那に絶対触るようにしてて。

なつ ……………はい？

結海 え、なに？ちよつと、もっかい言って。

はつ江 いや普通か。やつぱつまらんね。ごめんごめん。

なつ ややややや。

結海 いや、つまらんくないつまらんくない、ちよつともっかい。もっかい言ってはっちゃ
ん、お願い。

はつ江 ……チャンスがあるときは、他人の旦那に絶対触るようにしてる。

なつ ……おとおおー。

結海 やばい。聞き間違いじゃなかった。

なつ それは、なに？どういうアレですか？あの、なにそれ？ジんクス？

結海 うん。落ちついて一個一個いこう。まず、チャンスってなに？いつ？

はつ江 えー、なんかみように恥ずかしんなってきた。

結海 いやいやいやいや。え、もう無理よ？はっちゃん。今更引き返せないよ。

はつ江 え、そうなが？

なつ うん、そうだね。これは聞かないとちよつと寝れないよね。

はつ江 えー、そっか。なんかごめんね。

結海 うん、私たちは全然大丈夫。だからさ、チャンスってなに？

はつ江 えーと、うちはほら、田舎やけんよ、なんか集まりとか、寄り合いがようけあるが
よ。

結海 ようけ。

なつ いっぱいってことね、うん。それで？

はつ江 そのー、お祭りとか、おきやくとか。

結海 お客？

なつ 宴会だよ。

はつ江 あ、そうそう。宴会。祝いとか、法事とかの集まりで、親戚とか、ご近所さんみん
なでご飯たべるが。

なつ うん。おきやく。ユウコに聞いたことある。

はつ江 そっかそっか。ユウコはねー、おきやくに出る細いぶよぶよのうどんが好きでねー

結海 うん、うどんはいいから。それで？そのお客で？

はつ江 他人の旦那全員に触る。

なつ ちよつ…

結海 うん、なんか急に時空が歪むんだよね。そのワード。

なつ なんて？なんでそんな…

結海 それはなに？すけべな気持ちで？

なつ あんた、すごいね。聞きたいこと全部聞いてくれるね。

はつ江 いや、全然。全然、そんな気持ちはないで。触るっていうてもあれで。手を握った

りとかはせんぞ？そういう触り方やなしに、こう、なんか渡すときにちよつと手が触れるように渡すとか、隣で作業するようにして袖をちよつと擦る、とか。そういう…

なつ 服越しでもオツケー？

はつ江 もちろんやいか。変なこと言うね、なつちゃんは。

はつ江、笑う。

なつ いや分かんないですからね、そのはつ江ルール。

結海 え、はつちゃん、あざといモテ方しようとしてる？

はつ江 え。

結海 それか、消極的な痴女？

なつ それはないでしょ、だってすげべ心ないんだから。

結海 あ、そっか。

はつ江 でもあれで？嫌いな人も触らないかんがで。

なつ はい？

はつ江 だって、ルールやけん。

結海 だから分かんないって、そのはつ江ルール。

なつ そっか。そうだよね、だって全員だもんね。

妙に納得するなつ。うなづくはつ江。

はつ江 その日の会で、全員を目標に、触る。

結海 ……あっちゃー。

なつ え、じゃあ、モノ同士は？箸と箸。とか。

はつ江 それはNG。

なつ なるほど！。

結海 いやもう、どうでもいいわ。なんで？そろそろ聞かせて、なんで？この一点に尽きるわ。

考え込むはつ江。しばらくして、

はつ江 ……分かん。

結海 分かん！？

なつ ほおー…

結海 理由はないの！？

なつ ないってゆうか、「分かんない」んでしょ。

うなづくはつ江。

なつ じゃあ、分かんないんだよ。

結海 ええええー、ちょっと待ってちょっと待ってー……えー？

はつ江 ごめんね、なんか。

結海 え、待って待って待って。はっちゃん、もうちょっと考えようよ。

はつ江 うーん…

結海 ゲーム性が欲しいんじゃない？

はつ江 ゲーム？うーん……。

結海 スリルじゃない？だってその人の奥さんのいるところでやるってことは。

はつ江 いや、そう聞くとなんかすっごい……よくないね。

結海 いや、よくないことは…

はつ江 そう？みんなすること？

結海 みんなすること、ではないけど…

なつ いや、似たようなことはみんなしてるよ。

はつ江 あ、そう？え、どっち？やめたほうがえい？

結海 うー…

なつ やったほうがいい。

結海 え？

なつ やっ「た」ほうがいい。続けたほうがいい。(結海に向かって) あんたは、自分が納得したいだけなんだよ。すべてのことに理由があるなんて思わないほうがいいよ。

結海 ……。

なつ ごめんね、はつ江さん。聞きすぎた。

はつ江 いえいえ、私は全然。

なつ うん。でもまあ、これは、墓場まで持って行きましょうか……。

はつ江 え、やっぱりそうながや。

結海 うん……そだね。聞いたいてなんだけど、そだね。

なつ ユウコにする話では、ないかな。

はつ江 そっかー。なんかごめんね、あんまり面白くないはなしして。

なつ いやいやいやいや。

結海 すっごいおもしろかった。すっごいおもしろかったけど、ユウコちゃんにする話では
ないっただけで。

はつ江 そっか。ほいた、これはやめちよこうか。

なつ そうですね。これはちよっと、ここだけで。

結海 もったいないけどね。

はつ江 うーん。またなんか考えちよくわ。
結海 そだね。

おのおの、何かを思う間。

はつ江 ……寝ろうかねえ。

結海 そだね。

はつ江 明日、なっちゃんも行くやろ、病院？

なつ あ、はい。えーと、十時。

はつ江 うん、十時。あつこ寄らな。

なつ カツマタ。長いタオル買いましたよ。

はつ江 うん。

結海 ねえねえはっちゃん、ユウコにここ泊まってること言っていないよね。

はつ江 うん。言うちよらんで。

結海 よしよし。

はつ江 言わんほうがえいがやろう。

結海 うん、絶対言わない方がいいよ。自分がいないあいだに親が家に寝泊まりしてるって、

だいぶソワソワすると思うよ。

はつ江 そんなもんかねえ。

結海 そんなもんよ。年頃の娘だもん。

はつ江 思春期でもないがやに。

結海 いや、親が来るってなるとそれなりに隠しときたいもんもあるって。

はつ江 そんなもんかねえ。

結海 そんなもんよ。ねえ。

結海、なつをちらりと見る。

はつ江 おやすみ。なっちゃん、仕事場とってごめんよ。

なつ いいえー、まったく。

結海 私もすぐ行くね。電気消しといていいよー。

はつ江 はいはい。おやすみ。

結海・なつ おやすみー。／おやすみなさい。

はつ江、リビングから出て行く。

なつ ……はー。

結海 いやあ、おもしろかったね。さすがユウコの母親ってかんじ。

なつ ……ユウコ知らないでしょ。

結海 いやもう、ユウコとは昔っからの親友みたいなかんじするわ。もうソウルメイトだわ。

なつ 適当なことばっかゆって。

結海 その適当に助けられてるのはだあれ？私呼んでよかったでしょう？

なつ ……明日、何時に起きるの？

結海 なっちゃん達何時？

なつ 七時くらいかな。

結海 あ、じゃあ一緒に起きる。やっぱここからの方が会社近くて助かるー。

なつ ……彼氏にはなんて言ってきたんの？

結海 え、そのまんまだよ。友達のお母さんが田舎から出てきてるから、泊まりで女子会するって。

なつ ……。

結海 うそはついてないでしょ。さーて、私も寝ーよおー。

結海、ひとつ大きなのびをしてリビングから出て行こうとする。

なつ 元カノの、今カノの親と一緒に寝れるって、あんたどんなメンタルしてんの。

結海 え、じゃあなに？あっちで一緒に寝てくれるの？

なつ 違うよ。ここで、リビングで、寝る、とか。

結海 そっかそっか。一週間身体あくの、寂しいよねー、なっちゃん。

結海、なつの頬を手で撫ぜようとする。なつ、慌てて身をひく。結海の伸ばした腕が宙に浮く。

結海 じょうーだん、やんかいさー。

なつ あんたの冗談、笑えないんだよ。

結海 あらそうですかー。

なつ あんた、結婚するの。

結海 ……なっちゃんに関係くないー？おやスマスー。

結海、リビングを去る。一人残されたなつ。

なつ おやスマス。

暗転。

別の日、夕刻。リビングには誰もいない。

寝室につながる引き戸がそうっと開き、中からはつ江が出てくる。手には長いタオル。

はつ江は何かを閉じ込めるようにきっちり戸を閉め、ゆっくりとリビングの椅子に腰掛ける。

リビングの机の上には、荷造り中だろうか、先日のポストンバックが載っている。

傾きかけたからだらとした日差しが、微動だにしないはつ江を照らしている。

しばらくして、なつがリビングへ入ってくる。はつ江は手に持っていた長いタオルをさつと隠した。

なつ うわあ。びっくりしたー。台所かと思った。テレビつけていいですよ？

はつ江 うん。

なつ、しゃべりながら台所のほうへ向かう。

なつ ごめんねー。はつ江さん、仕事場とっちゃって。ちょっと七時くらいまで仕事させてもらうね。ヘッドホンつけて仕事するから、呼ばれても気がつかないかもー。なんかあったらラインしてね。

なつ、マグカップを持って台所から出てくる。

はつ江 ……。

なつ どうしたの？

はつ江 あ、ううん、なんちゃ。仕事場とつちようがはこつちやいか。ゆっくり、気にせんと仕事して。ごはん作っちゃくけん。

なつ ありがとうー。コーヒー飲む？

はつ江 あー、うん。あー、今はえいかな。

なつ そっか。じゃあ。あ、コーヒーマーカーのやつ、勝手に飲んでいいからね。あー、やつぱユウコのコーヒーにはかなわないあー。

はつ江 そうかよ。

なつ ユウコ、元気そうでしたですね。

はつ江 ほんで。顔の擦り傷もなんちゃやなかったね。

なつ あんなおおいガーゼ貼ってるから、どんなもんかと思ってましたもんね。ふふ。よかった。

はつ江 うん。

なつ あ、じゃあ…

はつ江 うん。がんばってー。

なつ はい。

はつ江、なつがリビングから出て行くのを見届けると、寝室の方をじっと見る。目が離せない。そのうち吸い込まれるように、もう一度寝室の扉を開けようと腰をあげる。

なつ あ、そうだ。

仕事場に引っ込んだはずのなつが再び現れる。その場にかたまり、妙な中腰のままで応じるはつ江。

はつ江 なに。

なつ もうちよつとしたら、結海が来るはずだから、ピンポン聞こえたらはつ江さん出てもらっていいかな？ピンポンの音、でかくしといたから。

はつ江 あ、うんうん。オッケーオッケー。

なつ ……何してんの？

はつ江 ……なんちゃあ。

はつ江、中腰状態からゆっくりと椅子に腰を下ろす。

なつ ……運動？腰いためるよー？

なつ、笑いながらリビングを出て行く。大きくため息をつくのはつ江。しばらくぼんやりと腰をさすっていたが急に立ち上がり、寝室の扉をいきおいよく開ける。背筋を伸ばし、両手をぎゅつと握りしめて一点を見つめている。

玄関のチャイムがなる。我に帰ったのはつ江はしっかりと扉を閉め、バタバタと玄関へ向かう。玄関を開ける音。廊下で結海の声。

結海 おじやますすー。あつ。あつ。あつ。なに今日。夏？

リビングに入って来る結海とはつ江。かましい結海を気にするはつ江。

結海 あれー？なつちゃんはい？

はつ江 今、仕事中。

「しー」をするはつ江。

結海 ああ。仕事部屋か。大丈夫だよ。どうせヘッドホンしてるんでしょ。
はつ江 あ、うん。

結海 爆音でノイズ聞いているから大丈夫。

はつ江 のい…？

結海 音楽。

はつ江 ああ。結海ちゃん、よう知っちようねえ。

結海 まあねえ。ねえ、ごはん作るのこれから？私なんか手伝うよ。

はつ江 ああ、うん。今日は、なっちゃんの作り置き塩豚があるけん…

結海 ぎゃー。なつの塩豚、最高。

はつ江 ああ、うん、それで…

はつ江、言葉が切れる。

結海 ん、はっちゃん？どしたの？

はつ江 結海ちゃん。

結海 なに、お腹痛い？

はつ江 お腹は痛くない。

結海 どうしたの？

はつ江 ちょっと、聞きたいことがあるがやけんだ。

結海 ……まじめな話？

はつ江 多分。

結海 ビール飲んでいい？

はつ江 どうぞ。

結海、台所へ向かう。

結海 やだなー。まじめな話は。思ったより早かったなー。はっちゃんも飲む？

はつ江 いや、私は……飲む。

結海 「私は飲む。」いいね。強い意志を感じるね。

結海、缶ビールを二本持って来る。揃ってプルタブを引く二人。

結海 はい、かんぱーい。

はつ江 かんぱい。

二人、ビールをあおる。

結海 あー、うま。……で？

はつ江 うん……。さっき、これ。このタオル取りに入ったがよ、こっちの部屋。

結海 ……寝室。

はつ江 うん。……昨日の朝、病院行く前にその商店街のカツマタいうこんまい洋品店いて、長いタオル買おうか思うたがよ。なんかユウコが…ほら、こっちの手ん使えんけん髪拭くがに、じゅん悪いがやと。こっちの脇で、こう、挟んだら、こっちの手だけで、こう、拭けそうなけん、長いスポーツタオルみたいながこうて来てって言われて。

結海 うん。

はつ江 けんだ、そのカツマタにのうてよ。長いタオルが。だいや言うて。ユウコに「今日はなかったけんごめん、明日持って来るけん。」ゆうて、病院帰りになっちゃん二人でふといスーパ寄って、たろうば探してこうて来たがよ。

結海 うん。

はつ江 これ。

結海 うん。

はつ江 ほんで、明日は私ひとおりで病院行くけん、かまえちよこう思うて、かまえよつたがやけんだ、ほらタオルって、いっぺん洗うちよかんと、水吸わんやいか…

結海 はっちゃん、寝室、入ったんだね。

はつ江 ……。

はつ江、うなづく。

はつ江 仲えい女の子って二人で寝るもんながやろうか？

結海 ……うーん。

結海、曖昧な返事。

はつ江 今時の子ってそうなが？なんぼ仲えいいうたち、そんな……ダブルベッドで寝るが？恋人みたいに？

結海 はっちゃん。

はつ江 ……はい。

結海 このベッドは、クイーン。

はつ江 は。

結海 このベッドはクイーンサイズ。

はつ江 え、あ、そうなが？

結海 ダブルベッドって、思ったより狭いのよ。大人二人が寝ようと思ったたら、最低でもク

イーンサイズ。これでやつと寝返りが打てる。クイーンでもセミシングル二つぶんだからね。長いことダブルで寝てるカップルはそのうち身体こわすよ。

結海、スマホを取り出し、どこかにメールする。

はつ江 カップルって……その、二人はカップルなが？

結海 ちー……があー……

結海、はつ江を見つめてため息。

はつ江 え。何、何。

結海 なんで私が……

はつ江 え。

よく分からない沈黙が流れる。そのうち廊下の方から仕事部屋のドアが開く音が。続いて大慌てで廊下を走ってくる音が聞こえる。リビングになつが走り込んで来る。手にはスマホを持ち、肩で息をしている。

結海 締め切りいつ？

なつ ……明日。

結海 ガチの締め切りは？

なつ ……多分、しあさって。

結海 よし。ここ座って。

言われるがままに空いてる席に座るなつ。

結海 というわけで、私はこれでドロンしますね。

結海、立ち上がる。

なつ ちょちょちょちょ……

なつ、結海の腕をつかんで引き留める。

結海 なに。あ、塩豚そのままでもいいから包んでくれたらうれしいかも。

なつ 「かも。」じゃないよ。ちょっと待て。

結海 なに。保冷剤入れたら大丈夫だって。

なつ ちがう。この状況で？二人にすんの？ちょっと待ってよ。

結海 なに。私関係ないじゃん。

なつ ないけど……。ないか？……。ないか。

結海 ないよ。もう。人に嘘つかせないでよ。

はつ江 結海ちゃん。

結海 はい。

はつ江 できたらおつてもらえんろうか。ほら、そのー第三者がおつてくれたほうが、冷静にお話できるかもしれんし。ね。嫌やなかったら。

結海 うーん……。はつちゃんがそう言うがやつたら……。

はつ江 ありがとう。えつとー、なつちゃん、ビール飲む？……って人の家やけんだ。

なつ いや、私は……。飲む。

結海 だ。強い意志。

はつ江 うん。

はつ江、ビールを取りに台所へ。なつ、結海を睨む。

結海 時間の問題だったんだって。

なつ あんたがここに泊まらせたから……

はつ江、ビールと包丁を持って入って来る。

なつ・結海 ぎゃー！／いやあー！

なつと結海、狭い部屋をばたばたと逃げ回り、最終的に隅の方へかたまる。

なつ ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。

結海 ねえ、私関係なくない？私関係なくない？ねえ、コイツじゃない？コイツだよね。

なつを差し出す結海。それでまた押し合いへし合いになり、ぎゃあぎゃあ騒ぐ二人。

はつ江 何やりようが、危ないやいか。包丁持ちようがやに。

なつ へ？

はつ江 つまみに塩豚焼こうか思うてよ。二人とも食べるろ？

なつ え、あ……。は……。

結海 び……。つくりしたあー。殺されるかと思った……。

はつ江 なに言いようが。はい、ビール。

はつ江、なつにビールを渡す。恐る恐る受け取るなつ。

なつ あ、はい。どうも……。

はつ江、塩豚を焼きに台所へ。

なつ あ、ちょ……、はつ江さんはつ江さん、とりあえずいいです。塩豚。

はつ江 え、そう？

なつ うん。大丈夫。とりあえず座って。

結海 え、塩豚食べたい。

なつ だめ。

結海 なんで。

なつ なんか、なんかもうあんたの願いはなに一つ叶えたくない。

結海 えー、ひどーい。

はつ江 かまんかね？

なつ かまんです。座って下さい。

はつ江は持っていた包丁をテーブルに置いて席についた。やっと三人が落ち着く。なつは、プルタブを引いた。

結海 えーと、かんぱーい？

なつ ……何に。

結海 ……命に？

なつ おお。

はつ江 かんぱーい。

なつ ……かんぱーい。

一口飲んで落ち着く三人。口火を切ったのははつ江。

はつ江 クイーンベッドをよ、見てしもうてよ。
なつ は。

はつ江、所在無げに包丁の柄を触っている。

はつ江 クイーンベッド、いうがやる、あれ。ダブルやなしに。
なつ ……はい。

はつ江 ごめん。ほんまにそんなつもりはなかったがやけんだ。スポーツタオルをよ？

なつ ……はい。

はつ江 それでまあ、そういうことながかなあ、と、思うて。

なつ ……すいません。

はつ江 そういうことかね？二人は、そういうことでおうちようかね？

なつ ……おう、ちよります。

はつ江 カップル、かね？

なつ ……カ、ツプル、です。

結海 ね、ちよつと待つてちよつと待つて。こういう話し合いの場に包丁があるのはどうか
と思う。

はつ江 あ、そうか。ごめんごめん。

はつ江、包丁を持って立ち上がろうとする。

なつ はっ…！

結海 あー、はっちゃんはっちゃん、貸して。貸して？私置いてくるから。座ってて。ね？

はつ江 あら、そう？お願いします。

はつ江、包丁を結海に任せ、席に落ち着く。

なつ ……嘘ついてて、すいませんでした。

はつ江 いやいや、そんな。うん……いつから？

なつ え。

はつ江 いつから、そのー、お付き合ひしようがやるうか？

なつ えっと、二年ちよつと前……くらい、かな？

はつ江 で、一緒に暮らしてー…

なつ 一年です。

はつ江 そっか、そっか。塩豚食べる？

はつ江、再び立ち上がろうとする。手で制するなつ。

なつ 塩豚はいいです。

はつ江 そっか、そっか。

はつ江、落ち着く。結海、戻ってくる。

結海 はっちゃん、大丈夫？

はつ江 大丈夫大丈夫。うん。まあ、びっくりしたけど。

なつ すいません。

はつ江 いやいや、うん。まあ、流行っちょうやいか。今。こげながん。

なつ あー：

はつ江 テレビで見たがよ。こないだ。そのー、男の人同士の生活に密着したテレビ。炊事も洗濯もこじさんとやりよって。お父さんと「男所帯でこれはなかなかたいたいしたもんやねー。」いうて、見たがよ。ほんでその人ら最後は虹の旗かなんか持ってデモしよったわよ。

なつ あー、はい。えっと、プライドパレードですね。

はつ江 あ、そげに言うが。パレード言うがやね。

なつ あ、はい。

はつ江 そつかそつか。なんちゃ知らんおばちゃんやけんよ。許いてや。田舎やけんよ。そげな人もおらんし。けんだ、うん。大丈夫大丈夫。やっぱ若い人はすすんじようね。

なつ すすんでるっていうかー：

はつ江 うん、大丈夫。安心しいや。おばちゃんも女子校やったけんよ。女の子にラブレターもろうて告白されたことんあら。うん。ようあることよ。

結海 あ、へー。はっちゃんモテたんだ。

はつ江 モテたでー。こう見えて演劇部の部長やったけんね。

結海 え、以外。

はつ江 天草四郎やったときは次の日すごかったでー。休み時間によそのクラスからみんな見に来るが。廊下にこう、鈴なりになって。

結海 え、おもしろ。

はつ江 いや。そう言われて見れば確かに。なっちゃん、若い時のおばちゃんに似いちよう。

なつ え、あ、そうですか。

結海 たしかにー、天草四郎顔。

なつ 天草四郎顔？

はつ江 やけん、うん。おばちゃんはこげなことには理解があるほうやけん。大丈夫やけん、ね？

結海 え、よかったじゃん、なつ。

なつ あ、うん……ありがとうございます。

はつ江 いやあー、なんかほっとしたあ。

結海 え。なんで？

はつ江 ほら、ユウコ。全然彼氏の話してくれん言いよったやいか。他のことはなんじゃち喋ってくれるがやに。なあしそこだけ隠するう、信用されてないがやろうか思うて。これで理由ん分かった。彼氏はなっちゃんやったがやねー。

なつ ……すいません。

はつ江 かまんかまん。なっちゃんが、責任もって、ユウコを一生幸せにしてくれるがやったらかまんけん。

なつ え。

はつ江 あの子は一人っ子でワガママやし、世間知らずなどこあるけん、なっちゃん苦労するかもしれんけん。守っちゃってや。

なつ あ……はい。

はつ江 よろしくお願いします。

なつ あ、こちらこそ、よろしくお願いします……。

結海 ひゃー、すごい！

なつ うるさい。

結海 だって、こんなことある？こんな場面に立ち会えるとかある？お祝いだよこれは。

はつ江 よっしゃ、この話はもうおしまい。ご飯作ろうか。結海ちゃん手伝うてや。

結海 あ、うん。

なつ あ、私もー…

はつ江 なっちゃんは仕事んあるがやろう。こっちはかまんけん。ね。できたら呼ぶけん、仕事しよったや。

なつ あ、はい。ありがとうございます。

はつ江、立ち上がり、台所へとむかう。残された結海となつ

結海 よかったね。

なつ うん。

結海 結果大成功じゃん。

なつ うん。

結海 爆速だし。まったくもめてない。こんなことってある？

なつ うん。

結海 昨今の親ってこんなかんじなの？てゆうか私のおかげ？感謝してよね。
なつ うん……。

結海、台所へ入って行く。一人残されたなつ。ほうつと小さなため息をつき、仕事場へと戻る。台所からはしゃいだ二人の声が聞こえる。

その日の夜。結海は帰ったようだ。寝巻きでスマホを熱心に見ているはつ江。空のマグカップを持った疲れた様子のなつが入ってくる。

はつ江 あ、なっちゃんなっちゃん。

なつ はい。

なつを手招きで呼ぶはつ江。

はつ江 これ、見て。

はつ江、なつにスマホの画面を見せる。はつ江、寝巻きの胸元が空きすぎていることに気づき、一番上を閉める。

なつ あー……「夢の国」ですね。

はつ江 ね。素敵やことない？人前式ゆうが？どっちもウエディングドレス。シュツとしたやつと、ふわあつとしたやつ。華やかでええわー。

なつ ほんとですね。

はつ江 男の人は何？タキシードっていうが？いうたち、普段の背広とそんげえ変わらんやいか。面白くないわ。女の子二人やとええわー。華やかで。これはやる価値あるわ。あ、コーヒー？入れようか。

はつ江、なつにスマホを預け、代わりにマグカップを受け取り台所へと立つ。

なつ すいません…

向かいの椅子に腰掛けるなつ。スマホにはテーマパークで結婚式をあげているらしい、ウエディング姿の二人の女性が写っている。はつ江、台所からなつへ話しかける。

はつ江 なっちゃんはあれやね、シュツとしたやつの方が似合いそうやね。それかあれ？

タキシード着たい？

なつ いやあ、私は…

はつ江 なっちゃんとこのご両親にも、ご挨拶せなね。

なつ あー…

なつ、しばらくぼんやりとスマホの写真を見ているが、そのうち画面は真っ暗になり、疲れた自分の顔が映る。スマホを裏返し、テーブルに置く。

はつ江、コーヒーを入れてリビングへ戻って来た。

なつ ありがとうございます。

はつ江 なっちゃんとはあれ？ご両親にはまだ言うちよらんがやる。そのー、なっちゃんが女の子が好きやっというー…

なつ あ、はい。なんか、うちは、全然。そういう雰囲気じゃないっていうか…

はつ江 そっかそっか。時間かかるかもしれないけど、あきらめんと、ゆつくり認めてもらうたらいわ。あ、うちは大丈夫やけんね。お父さん、若い人のやることには口だしんけん。ユウコがインド行った時も経験や言いよったもん。あの子は昔つから変わつちようけん、慣れたもんよ。私らは味方やけんね。ね、がんばろう。

なつ、力なく笑う。一人意気込んでいたはつ江はスカされたかたちになる。

はつ江 ……もうちよつとかかる？

なつ そうですね……今日はもうちよつと。

はつ江 ほいた、今日はこっちに布団しこうかね。

はつ江、布団を取りに行こうと立ち上がる。

なつ あ、そうですね。すいません。

はつ江 かまんかまん、どこやち。布団があつたら上等や。

なつ あのー、はつ江さん。

はつ江 ん？

なつ ユウコはー…

はつ江 うん。

なつ ユウコは……いや、なんでもないです。すいません。ありがとうございます。

はつ江 うんうん。なんちゃあ、心配せんだちかまん。

なつ ……ありがとうございます。

はつ江、なつの肩を優しくぽんぽんと叩き、リビングを出て行く。

なつ ありがとうございます……。

その二日後。リビングではつ江と結海がスナップエンドウの筋取りをしている。はつ江は仕事場の方を気にしている。しばらくして

はつ江 ……なっちゃんは大丈夫やろうかね。
結海 さあ。ガチの締め切りだもんね。今日。
はつ江 はあ。私のせいでそんげえ進まなかったらかね。
結海 いや、まあいつつもこんなもんだよ。ぎりぎりであるの。
はつ江 はあー。結海ちゃんは詳しいねえ。
結海 まあね。

間。二人とも肅々と豆の筋をとる。

結海 ユウコちゃん、帰って来るの明日だっけ。
はつ江 そう。えーと、三時。なっちゃんと一緒に迎えに行ってくる。
結海 そっかそっか。んで、はっちゃんが帰るのが？
はつ江 明後日。親戚の法事もあるしね。
結海 あ、それは、アレ？ふれあいパーク？
はつ江 ふれあいパーク？
結海 他人の旦那と
はつ江 ふれあいパーク。ちよつともうやめてやー。言い方ー。

結海、笑う。

結海 いいじゃんいいじゃん。……ねえ、はっちゃん。私と会ったことユウコに言ったらだめだよ。

はつ江 え、なんで。

結海 私、なつの元カノだから。

はつ江、結海の顔をぼかんと見つめる。

結海 はっちゃん、手エ止まってる。

はつ江 あ……

はつ江、再び作業に戻る。

はつ江 はあー、なんと言うか、色々…

結海 ちなみに、私ユウコに会ったこともないから。

はつ江、再び結海の顔を見る。

結海 そこんとこヨロシク。

はつ江 え、じゃあ、この一週間のことは…

結海 全部内緒。ここに寝泊まりしてたことも、私と会ったことも。全部。

はつ江 えー……。

結海 はい、手エ動かすー。

はつ江、もたもたと作業再開。

はつ江 せっかく、仲良くなったがやに…

結海 え、別にいいじゃん、これからはっちゃんと私が連絡とつても。

はつ江 え、あ、そっか。

結海 ユウコを通さなくても。はっちゃんの、東京の友達ってことで。

はつ江 そっか。そうやね。

間

はつ江 えーと、なんであの、ユウコが入院した日、ここを訪ねてきたが。

結海 忘れもんとりに。

はつ江 あ。

結海 そこはほら、元カノだから。

はつ江 あー…

結海 大丈夫。もうなつとは切れてる。

はつ江 ……。

結海 私、今度結婚するって言ったじゃん。

はつ江 あ！え？そっか。そういうのアリ？

結海 そうなのとは？

はつ江 えーと、結海ちゃんは、女の子が、その、対象じゃないが？

結海 私はどっちも、

はつ江 あ、ほー…

結海 いけると思いたい。

はつ江 ん？

はつ江の手が止まったので、結海は顎をしゃくってサインを送る。はつ江、作業再開。

結海 ……うちの両親、最初、私の名前を「カツミ」にしようとしてたんだって。

はつ江 カツミ？

結海 そう。「海」を「割る」で「割海」。

はつ江 あらー、それはまあ。

結海 はっちゃん知らないかな？ほら、「モーセの海割り」。

はつ江 あー、なんか、聖書の。こう、杖でついたら、海ん割れたっていう。

結海 そそそそ。それ。うちの両親キリスト教で…

はつ江 あ、それで「割海」！？

結海 そそそそ。

はつ江 あらー、おしゃれ。

結海、笑う。

結海 ……そっか、おしゃれかー。

はつ江 おしゃれやか。

二人とも笑う。

結海 で、うちのばあちゃんが、それはあんまりだっけって「結ぶ海」の「結海」になっ
たんだった。

はつ江 そっかそっか。結海もえいね。

結海 ……私、自分の親、好きなんだよね。

はつ江 そっか。ほいたら結婚式楽しみやね。

結海 うん。楽しみ。

リビングの扉が開く。スマホを持ったなつが入って来て、そのままソファに突っ伏した。

はつ江 ありゃ。終わったかね？

なつ ……まだです。もうちよつと。あと訂正待ちー。

はつ江 そっか。お茶のむー？

なつ 飲みますー。…あ、ご飯炊いてない…

なつ、ご飯を炊きに台所へ行くこうとする。

はつ江 あー、かまんかまん。炊いちよくけん。

なつ あ、そうですか？すみません。…ヤバイ。助かるー。

はつ江 ユウコはどうせなんちゃせんがやる。

なつ あ、まあご飯くらいは炊いてくれますよ。

はつ江 おーいや。ふん悪い。ごめんね、なつちゃん。ユウコには、はよ料理覚えるように言うちよくけんね。

なつ いや別に、私料理、苦じゃないんでー…

その時なつのスマホが鳴る。

なつ あ、訂正来た。

なつ、バガつと飛び起きてそのままバタバタとリビングを出て行く。

はつ江 ありゃ。お茶も飲まんど…

結海 大丈夫だよ。

はつ江、再び豆に視線を落とす…

はつ江 ……結海ちゃん、なつちゃんのお仕事ってどんな感じながやろうか？

結海 どんなつて？

はつ江 デザインのお仕事って、私らの周りにおらんけん、どげなもんながやろうか、思うて。そのー、自営業やろ？収入とか…

結海 ぐちゃぐちゃだよ。がばつと月百万近く入ることもあるし、収入ゼロの月もあるし。

すごい不安定。生活は、昼夜逆転することしよつちゅうあるし。調子悪い時はなつはすごい落ちるし。ヤバイホントのこと言いすぎた。

はつ江 ……そつか。ちゃんと二人でやっていけるがやろうかね。

結海 さあー。でもそこはさ、どんなカップルでも一緒じゃない？安定してるカップルなんていないよ。

はつ江 それは……そうか。

結海 そうだよ。

二人、作業に戻る。

はつ江 ……さっきの話。

結海 んー？

はつ江 ユウコも、その……そういうことはあるろうか？

結海 うん？

はつ江 つまり、その……結海ちゃんみたいに元に戻ったり…

結海 元？

はつ江 元っていうか、普通に…

結海 普通。

はつ江 あ、ごめん。

結海 男の人を今後好きになるかってこと？

うなずくはつ江。

結海 それは…さあー？分からんね。人それぞれとしか言いようがないしね。

はつ江 可能性は？

結海 ……可能性は、あるよ。でもこれは、「なんでも可能性はあるんだよ。」って意味の可能性ね。私とはっちゃんに落ちる可能性もあるんだよっていう可能性ね。

はつ江、驚いて少し身を引く。

結海 なんで？どうした？急に不安になった？

はつ江 ……ユウコは、ずいぶん甘やかしてしもうたけん。こういう、普通じゃない道は…
…苦勞に耐えれんがやないろうか、思うて。

結海 なつじゃ力不足？

はつ江 そんなこと。…ただ、ユウコは自炊もできんし貯金とかも苦手やし…。家のこと、ちゃんと支えてやっていけるがやろか、思うて。

結海 「家」を「支える」かあ。

はつ江 ん？

結海 そっかそっか。はっちゃんはさ、なつのこと、無意識に「男」として見てるんだよ。

はつ江 え。

結海 まあ、そうだよな。自分の娘が「女」だもんね。

はつ江 ……。

結海 なつは、ユウコの彼氏じゃないよ。ユウコの彼女。で、ここが家庭を持つとしたら、どうしたって、「女・女」なんだよ。社会的にも経済的にも弱いよ。片っぱ自営業だし。

どっちも自立してないとまずいんだよ。

はつ江 ……そっか。

結海 うん。

はつ江 そっかあ。

結海 うん。そういうことなんだよ。

はつ江 私は…そっか…。

はつ江、うなだれる

結海 はっちゃん、気をしっかり持って。多分いっぱい、いっぱいあるんだよ。今後はっちゃんに悪気はなくても。

はつ江 ……うん。

結海 はっちゃんは、いい奴だから大丈夫だよ。あとね、男でもまともじゃない奴はいっぱいいるよ。本当、ろくでもないやつ。殴ったり、蹴ったりするやつ。女を自分のアクセサリー扱いする奴。座席二つ分とるやつ。傘をこう…こう、持つやつ。なつはクズだけど、正直だし、まともだよ。

はつ江 え…あ、はい。

結海 元カノが言うんだから間違いないよ。自分のこと自分でするし。

はつ江 ……うん。

結海 よし。はっちゃん、ごはん。

はつ江 あ。うん…ごはんごはん。ごはん炊かないかん。

はつ江、立ち上がる。

はつ江 私は、なっちゃんに、なんか取り返しのかんこと言うたりしちよらんろか？

結海 ー、どうだろ？なつの態度見る限りは大丈夫じゃない？

はつ江 そっか…。結海ちゃん、ありがとね。あんたはほんまに名前通りの子おやね。

一人残された結海。豆が入ったボウルをじっと見る。そのうちすつと立ち上がる。

結海 ごはんごはん。

翌日。

ユウコの退院の日。テーブルを挟んではつ江となつがお茶を飲んでいる。結海は二人に背を向ける格好でソファに座りなにやらパソコンに向かって作業している。傍らには営業カバン。どうやらまた外周りの途中でこの家に寄ったようだ。

はつ江 で、久子さんがー

なつ 久子さんって誰ですか。

はつ江 父方の本家の。お嫁さん。

なつ ちちかたのー、ほんけのー…

はつ江 もちを塩こしように食べるがやと。

なつ・結海 え!?

おもわずふりむく結海。はつ江、二人に向かって神妙にうなづく。

結海 もちを？塩こしょうで？

はつ江、うなづく。

結海 えー：

はつ江 それでお姑さんがえらい怒ってよ。

なつ はあ。

はつ江 ほら、古い人やけんよ。もち、とか米、とか大事にするがよ。ほんでそげにして食べようがん、どいうたち許せんかったみたいなでよ。もう、近所中間こえるばあふとい声でひせくってよ。かわいそうに久子さん泣きだいて、ほんで、おさまるまでうちんくこさせちよったがよ。

なつ はー。

はつ江 そうながよ。

二人、しみじみお茶をすする。二人、時計を見る。

はつ江 ……まだ早いね。

なつ そうですね。三時だから、二時……十五分くらいに出ましようか。

はつ江 そうやね。結海ちゃん、十五分にはでるよー。

結海 はーい。

二人、お茶をすする。

はつ江 ほんで久子さんのお花の先生が…

なつ はつ江さん。

はつ江 はい。

なつ あの、ユウコ、と、私のことなんですけど。

はつ江 うん。

なつ 聞かなかったことにしてもらえませんか？

はつ江 へ。

なつ お願いします。

なつ、頭を下げる。

はつ江 え、……なんで。私は反対せんで、二人のこと。なっちゃんえい子やし、応援したいと思うちようがで。お父さんも…

なつ それはどうでもよくって！

はつ江と結海、驚いてなつを見る。

なつ うち、郵便局なんですよ。石川の輪島の、ちっちゃい町の。ひいじいちゃんの代から郵便局長で。田舎の郵便局の家って、なんか、こう、力があるんですよ。その土地の権力者っていうか。山とか持つって、小学校に顕微鏡寄付したりするような家です。はつ江さんなら分かると思いますけど、田舎の郵便局の家って、なんか、こう、分かりますよね。

はつ江 ああ、……しっかりしたおうちのええとこの子おやね。

なつ そうなんですよ！私、しっかりしたおうちのええとこの子おなんですよ。

結海 あんた、何。

なつ 私、無理です。カミングアウト一生する気ないです。

結海 なつ…

はつ江 なっちゃん、落ち着いて。ね、ゆっくり分かってもらう努力をしたら…

なつ 私たちは！……勇気を出して！みんなを説得する努力をして！困難を乗り越えて！おおやけに祝福されて！幸せにならないとだめなんですか！？夢の国で！？光のもとで！？

結海 光のもとで……？おい、どうした。

なつ ユウコは！……ユウコもカミングアウトする気なかったかもしれない。その自由を私は奪ったんだよ。なんか、流れでふんわり勝手にアウティングしちゃって。コレやばくない？私、クズ虫じゃない？

結海 ……。

はつ江 ……なあし。どういたがなっちゃん。今の所、悪いことはなんちゃあおこつちよらんやいか。

なつ 違う、そう言うことじゃなくって…

結海 なつ。

なつ ……。

結海、テーブルにつく。

結海 はっちゃん、えーとね、私たちはね。……私たちは、隠すために、色々な嘘をつくのね。好きなドラマとか、漫画とか。好きなタレントとか、もう、自分の趣味嗜好、ぜえ

んぶ。一個の嘘を隠すために、いっぱい嘘。それも、一番大事な人に対して。長いこと。もしかしたら一生かも。

はつ江 ……。

結海 うん。多分、ユウコも。……ユウコが親に知られたくないと思って、これまで何十年もついできた沢山の嘘を、努力を、私たちは台無しにしちゃったわけだ。たった1日で。

はつ江 ……でも私は、あの子が言うてくれたら絶対…

結海 うんでも、ユウコは今まではっちゃんに言っただけでなかったよ。それは、思うところがあつたからだよ。まだ言うタイミングじゃなかったのかもしれないし、墓まで持つてこうとしてたのかもしれないし。

はつ江 そんな…仲、悪いがで？うちは。うちは、だって…

なつ うちも。仲、悪くないです。

結海 うちも。

はつ江 ……。

なつ どつちかの努力のおかげで成り立ってる仲、ってあるんじゃないですか。

結海 うおい。なつー、言い過ぎー。

なつ ごめんなさい。とにかく、聞かなかつたことにしてもらえませんか。ユウコの意味がはつきりしない以上…。

結海 ……まあ、そらそうか。

なつ あと、もう、これ、全部言っちゃうと…

結海 何、コワ。

なつ 私、ユウコを一生幸せにできるか、自信ないです。私たちって、少数派だから純愛ってわけでもないんですよ。あ、「私は」か。ごめんなさい。ごめんなさい、私は特にそんなに純粋な人間じゃなくって。惚れっぽいし、一人になるのすっごい怖いんで、一人恐怖症なんです、彼女切らしたことなくってぶっちゃけ二股とか？あ、今はないですよ。今はないですけど、あれ？…なに言ってるんだ。えっと、つまり、将来の責任とか、全くとれないんです。むしろ真逆の無責任クズ人間なんで、光の中で祝福とかされたら、いたたまれなくて霧散すると思うんです。だから、その、はつ江さんが思ってるような、おおやけに式もできないし、理想のカップルには…私なれないです。

結海 暗…

なつ しょうがないじゃん。だって急に、一生の問題になると思わないじゃん。

結海 軽い気持ちで付き合ってたのに？

なつ ……軽っ、く、では、ないけど…

結海 で、さっきから「光」「光」って言ってるけど何、それ。

はつ江 あ、もしかして、コレ？

はつ江、スマホを取り出し、結海に見せる。

結海 ……あー、これね。夢の国で結婚式ね。はいはい。確かに光輝いてるわ。

はつ江 ごめんなっちゃん、そんなつもりやなかったが。ただ、なんかこういうがえいなー、
と思うて…

結海 うん、なんかいいよね。

なつ うん、分かる。分かるけど、同性カップルすべてにこうあってほしいって思われるの
も無理っていうか…

結海 うん、それも分かる。

はつ江 ……そつか。ごめんね。

なつ いやいやいやいやいや、むしろ、こっちが…

結海が持っていたはつ江のスマホの着信音になる。

結海 うお。

はつ江 ああ、ごめんごめん。

はつ江、結海からスマホを受け取り、メールをチェックする。

はつ江 え。ユウコ、こっち向かいようって。

なつ え、なんで。

はつ江 あ!…時間、3時やなしに、13時やった。

なつ え。マジで。

なつ、自分のスマホをチェックする。

なつ うわ。着信入ってた。やば。もう着くって。どうしよ、タクシーかな?電話…

結海 とにかく、私出るわ。じゃあ、はっちゃんはなんも見えてないし、二人の関係は聞いて
ないってことで。

結海、慌ててパソコンを片付ける。はつ江はじっとスマホを見ている。

結海 ……はっちゃん?はっちゃん?バイバイだよー。

なつ え、何。とにかく結海は出て。

結海 ラジヤ。

結海、玄関へ。

なつ はつ江さん、そういうことで、すいませんお願いします！……はつ江さん？はつ江さん？

結海、靴を持って玄関から戻ってくる。

なつ ちよお……！あんた何戻って来てんの！

結海 ベランダから出んの！廊下とかでユウコとバッテリーしたらまずいでしょ！

なつ いいじゃん別に。知らんぷりしといたら。

結海 ……あんた、そんなんだから刺されるんだよ。彼女の元カノと廊下ですれ違って気づかない女がいるとも思ってるの。バーカバーカ。

なつ いや……でも、ベランダって、どうやって…

結海 この雨どい、脱出用に下まで足引つ掛けれるようにしてるから。

なつ はあ！？

結海 こんなこともあろうかと、前に私が改造しといたの！

なつ ちよつとあんた、マジでいいかげんに…

結海 バッテリー多かったじゃん！前から！あんたのせいじゃん！おかげで助かったんだからいいでしょ！

寝室に行きかけた結海の腕をはつ江が掴む。

はつ江 蟹食べよう。

結海 は？

はつ江 みんなで、蟹食べよう。

結海 え……何て？

はつ江、なつのほうに向き直る。

はつ江 ごめん。なっちゃん。

なつ ……何が。

はつ江 お願い。みんなで蟹食べさせて。

なつ ……。

結海 ……怖。

はつ江 みんなで蟹食べたい。結海ちゃんも一緒に。ね。ユウコの好きな蟹。タラバ。お祝いや思うて、昨日から解凍しちよつたがよ。ユウコは右手が使えるけん、剥いちやらなあ怒るろね。あ、ほら、かに酢やのうて、土佐酢、いうの作ったけん、ね、結海ちゃん

食べていったや。

結海 ……いや、はっちゃん何言ってるの。私は、まずいでしょ。

なつ はっ江さん、それは…

はっ江 ごめんなさい。

なつ 何…

はっ江 ごめんなさい。私は一個も、よう持たん。

なつ ……何を。

はっ江 秘密を。一個もよう持たん。ユウコによく嘘つかん。この一週間を無下にして、ユウコとなっちゃんのこと知らんぷりして、結海ちゃんにも会ってないことにして…

ごめん、無理や。

結海 はあ？いや……ちよつとがんばってはっちゃん。そんならいやってよ…

はっ江、かぶりを振る。

はっ江 あんたら、えらいね、すごいね。ようがまんしてやってきたね。ごめんね。いっばい嘘つかせてごめんね。ごめんなさい。ごめんなさい。ありがとう。私は、……私は一個もよう持たん。

なつ はっ江さん…

はっ江 腹たつやろう、一個くらい持てて思うやろう？ごめん。台無しにしてごめん。でも、私はようやらん。ユウコとなっちゃんが嘘つくのを、よう見っておれん。

結海 はっちゃん、やって。二人のこと応援したいんでしよう？じゃあやってよ。

はっ江 うん、分かっちゃう。分かっちゃうけど……ようやらん。ようやらんが。

結海 はっちゃん…

はっ江 ごめんなさい。……蟹はみんなで食べたい。

はっ江、頑として結海を離さない。その力は思いの外強く結海は振りほどけない。

結海 えー……ちよ……えー……？

なつ ……分かった。

結海 は。

なつ うん。蟹は、みんなで食べる、食べ物です。

結海 なつ？

なつ うん、大丈夫。……分かった。はっちゃんが、嘘を隠すためにまた嘘ついて、私も、ユウコもまた嘘ついて……ってなんかもうさ、なんだこれ。やめたい。

結海 なつ、あきらめんな。思考停止すんな。あんただいぶ立場やばいよ。

なつ うん。でもほら、もともとクズだから、もうそんなに減点されなと思うんだ。

結海 わお。

はつ江 ……なっちゃん、ごめんね。

なつ 大丈夫。大丈夫じゃないかもだけど……謝ろう。謝って、蟹食べよう。

結海 ……。

結海、大きなため息をつき荷物を地面に落とした。はつ江、手を離す。

なつ ……ゆーみん、巻き込んでごめん。

結海 その呼び方絶対だめじゃん。……いいよ、もう。巻き込まれてなんぼの人生やってきたし。

なつ だよね。

結海 だよねじゃないよ。営業で鍛えた土下座披露するよ。

なつ 上手くいったら蟹食べれるよ。

結海 ばーか。

玄関のチャイムがなる。ユウコが帰って来たのだ。

3人 はあああーっ!!

はつ江 来た!

なつ よし、出るよ。

結海 ちよちよちよちよちよ…

はつ江 結海ちゃん、手、手繋いで。

結海 へ?手?

はつ江と結海、手を繋ぐ。なつ、一つうなずいて玄関へ向かう。

結海 ……。

はつ江 ……結海ちゃん、毛ガニ食べたことある?

結海 え。毛ガニ?

はつ江 毛ガニ。いつか5人で毛ガニ食べよう。

結海 ……5人で…どの5人?

二人、喋りながらも目はドアから離せない。

はつ江 私と、ユウコと、なっちゃんと、結海ちゃんと、結海ちゃんの旦那さんの5人。

結海 何その5人…

はつ江 毛ガニはね、味噌が美味しいが。身も。タラバやズワイと比べても断然甘いし。「北の大地かに工房」っていう通販サイトがあつて、ネットでしか販売してないがやけんだ、これがなかなか…

玄関扉の開く音。息を飲むはつ江。続いて廊下からなつの声が響く。

なつ おかえりなさい。

二人の手に力がこもる。
リビングではまた別のお話が始まる。

溶暗。

了